

シンポジウム「世界遺産・平泉に学ぶ」、東京で開催



平成23年10月23日、東京文化財研究所を中心とする「世界遺産シンポジウム実行委員会」に神奈川県・横浜市・鎌倉市・逗子市世界遺産登録推進委員会も参加して、シンポジウム「世界遺産・平泉に学ぶ」が東京国立博物館・平成館講堂で開催されました。基調講演や公開討論などが行われ、鎌倉の世界遺産登録についても触れられました。以下、要旨をご紹介します。

基調講演 文化庁長官・近藤誠一さん

日本が考えている価値と世界遺産委員会の価値にずれがあり、どう埋めるかが課題だ。委員会は地域配分のバランスを欠いている。専門家は西欧に多く、条約の解釈も西欧に傾きがちな。今後の委員会の運営における重要な課題である。

平泉は石見銀山における「緑の鉱山」といったキャッチフレーズがなく、苦戦するかなと思っていた。9か所から資産を思い切って削ったが、今回登録から外れた柳之御所跡は、日本的価値をつなぐストーリーを保つものとして、いずれ世界遺産委員会やイコモスに提案したいと思っている。

問題提起 国立西洋美術館館長・青柳正規さん

世界遺産は地域主義とカタログ登録主義に問題を抱えている。国立西洋美術館などル・コルビュジェ

の建築群は多国間にまたがる地域の文化遺産で、国単位の国連の下部組織であるユネスコに新たな課題を突き付けている。

資産紹介

鎌倉、国立西洋美術館、百舌鳥・古市古墳群の3件が紹介され、鎌倉市からは世界遺産登録推進担当より、鎌倉がこれまでの国内の世界遺産の枠を超えて、文化財保護法と古都保存法によって保護される地域を合わせて推薦されることなどが説明されました。

公開討論「世界遺産と都市」

国士舘大学教授・岡田保良さん

平泉と鎌倉は都市を都市として作ろうという初期の段階だったと思う。平泉は公家文化の延長、藤原文化の延長であり、鎌倉は、武家が古代秩序を打ち破った都市を模索した結果、山と海に囲まれた形になった。

東京大学大学院教授・佐藤信さん

平泉は登録のコアになるのはお寺の遺跡と庭園だがもう少し都市として見てほしかった。中世都市鎌倉のコアになっているのは鶴岡八幡宮をはじめ山沿いのお寺が多い。中心地をどのように説明するかが課題である。

京都府立大学准教授・宗田好史さん

歴史都市はこれから造っていくものである。ヨーロッパでは都市部を造ってきた。これから20年30年たつて、鎌倉にふさわしい都市にするための計画があるのかどうか問われる。歴史都市を造っていくという努力が足りない。

震災復興を願い「寺社特別拝観めぐり」開催

春の「鎌倉まつり」の一環として開催を予定していた寺社特別拝観めぐりは、東日本大震災の影響により中止となりましたが、改めて震災の復興祈願をこめ、10月3日(月)～10月7日(金)にかけて推進協議会・内海恒雄広報部会長の案内により行われました。世界遺産候補地の社寺にお願いして、通常公開されていない部分も含めた史跡や文化財の特別拝観をさせていただきました。

10月3日建長寺では、山門の五百羅漢像、西来庵の昭堂や禅居院などを特別拝観しました。10月4日覚園寺では、副住職のご案内で千駄地蔵堂や、開山

塔、大燈塔を特別拝観しました。

その後永福寺跡を見て、瑞泉寺では仏殿などを特別拝観しました。

10月5日は高德院庭園

の特別拝観や大仏切通などを巡る予定でしたが、雨天中止となりました。10月6日寿福寺では仏殿を特別拝観し、その後浄光明寺では阿弥陀三尊像などを拝観しました。10月7日県立金沢文庫では、学芸課長の西岡芳文さんから金沢文庫の歴史についてお話を伺い、開催中の企画展などを見学しました。その後称名寺では、本堂などを特別拝観しました。



称名寺庭園